11月の定例教育委員会のお知らせ

◆日時／11月19日(月)　15時～　◆場所／第２委員会室（自由に傍聴できます）
◆問い合わせ／教育委員会 教育振興課　☎75－8022

江戸から明治へ～肥前たく幕末維新百五十年～

（四）墓標

（九月改元明治元年）

左上の写真は北多久町にある墓地の一角です。中央に一段高く見えるのは観世音菩薩立像で、左手に蓮華を持ち、右手は与願印（人の願をかなえます）の形です。蓮華台下の石塔には「為先祖菩提　念仏五百篇　吉岡氏」と刻まれています。

現在、十七基の墓標が立っています。そこには元文、宝暦、明和、文化、文政、天保、文久、慶応、明治、大正、昭和の年号が刻まれ、年号で判断できる範囲では、十八世紀中頃から二十世紀中頃まで約二百年間に渡り、菩提を弔い続けてきたことが分かります。

写真後方四列目左隅の墓標側面に、標題写真に示した慶應四辰年（1868年）が刻まれています。故人の没年か、建立年かは不明ですが、この墓標が、幕末維新の激動期を背景としていたことは確かです。

多久市郷土資料館長　藤井　伸幸

※写真や内容は所有者の了解を得ています

今月の論語

先ず其の言を行い、而して後に之に従う

まずは実行することが第一だ。言葉でいうことはその後でよい。

今月の帰宅放送は、東原庠舎中央校9年　津藤　瑞希さん（北多久町）です

教育長コラム　ちょっといい話

「お父さんを頑張って」

かしこかったが、親への反抗から心が荒れ、夜間徘徊やバイクでの暴走を繰り返していた。さまざまな処罰を経験した後、逃げるように遠い地域に行き仕事に就いた。

ある日、吉報が届いた。遠い九州にも名の届く大プロジェクトでの警備を任されたと喜んでいる。責任者に力を認めてもらい抜擢された。彼の長所がやっと花開いた。子どもができて、自分の親を反面教師にして、尊敬される父親になろうと頑張っているのだ。頭を撫でて褒めたかった。

昔は警察に散々面倒をかけていた彼が、過去のことを告白し、信頼して警備を任される程成長したのだ。感慨深い。

若気の至りは遠い日になった。

教育長　田原　優子

市民文芸

短歌《麦の芽短歌会 互選》

◆稲の穂が頭垂れ初む土手の道
吾も実りて垂れむと思う
浦野　嘉恵

◆面倒なゴミ出しの日に君に会う
見えない糸は今結ばれる
野崎　隆幸

◆下戸なれど枝豆を鮪てにビール飲む
心のうさが少しやわらぐ
梶原恵美子

◆四姉妹九十代と八十代
呆けることなくこの世を満喫
福島那智子

◆きみどりの稲田わずかに翳り来て
わが家に在らぬ秋の夕暮れ
尾形　節子

俳句《互選》

◆野仏の眼やさしき秋彼岸
中嶋　清子

◆秋立つ日痩せゆく姉を見舞ひけり
武富　律子

◆赤とんぼあなたと一緒ならゆける
倉成　晧二

◆風渡る野に豊かなる男郎花
おおやはな

◆露の世の小さき町に住みにけり
富樫　明美

川柳《多久市川柳会 互選》

◆一番に成れず泣く子に期待する
高塚ちかこ

◆種蒔いて実る畑に感謝状
古賀ちひろ

◆勿体無い一人で乗ったエレベーター
井上　東子

◆うまそうに実った柿は隣りんと
田代まつこ

◆停電が家族の会話弾ませる
西山　残月